

開催に

日本生命財団は1979年に人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを願って、日本生命により設立されました。

設立以来、助成の柱のひとつとして、「人間活動と環境保全との調和に関する研究」をテーマとして、環境問題に関する研究助成を行っております。毎年実施してきた研究助成は、これまでの累計で1,171件、助成総額27億7,200万円に達しています。

当財団は、これらの研究がさらに進展し研究者間の交流や情報交換が円滑に行われることを願い、併せてテーマに関心を持たれる方々の意見交換の場を提供するため、「助成研究ワークショップ」を開催いたしておりますが、このワークショップも今回で33回目を迎えることとなりました。

今回のワークショップでは、「人間活動と環境保全との調和に関する研究-自然環境の保全と農山村の再生・持続可能な地域づくり、都市・生活環境の改善と持続可能な社会づくり-」を募集課題とする学際的総合研究に採択された研究チームから、その研究成果をご報告いただきます。

過疎化・高齢化等による農山村の衰退は、農山村が果たしてきた自然環境の保全機能の弱体化を招き、生態系がもつ多くの機能の劣化を招いています。今日、自然環境(生態系)の維持保全を図っていくには、農山村の再生が重要かつ喫緊の課題となっています。

今回の研究は、「社会参加の再生可能エネルギー開発を起点とする農山村コミュニティの自立・持続戦略」

プログラム

13:00	開会挨拶	(公財)日本生命財団理事長 甲斐 啓史
13:10	研究プロジェクトの総括報告	茨城大学農学部 小林 久

第一部:開発の地域への波及と自治体の役割

13:30	小水力開発による電化農協の維持と展望	岡山大学大学院環境生命科学研究科 本田 恭子
13:50	再エネ開発の地域付加価値創造	京都大学大学院経済学研究科 中山 琢夫
14:10	地域による地域のための再エネ開発と自治体の役割	元健康科学大学 奈良 泰史
14:30	コミュニティ主導型適応策と持続的社會	茨城大学地球変動適応科学研究機関 田村 誠
14:50	休憩	

第二部:地域の主体性、ローカルベンチャーと自治体

15:00	地域の主体性を育む施策	綾部市 定住・地域政策課長 朝子 直樹
15:20	地域がつくる事業主体のかたちと機能	NPO法人地域再生機構副理事長 平野 彰秀
15:40	地域創成のための地方起業とその支援	西粟倉村 地方創生特任参事 上山 隆浩
16:20	休憩	

第三部:総合討論

16:10	質疑応答・討論	小林 久、中山 琢夫、奈良 泰史、田村 誠、朝子 直樹、平野 彰秀、上山 隆浩
17:00	閉会	

(敬称略)